

辻氏へのコメント

鈴木 健

2005/10/8 ISED 倫理研

認知限界と社会の関係についてのリマーク

- 認知限界が訪れるのではなく、我々は生命誕生以来、常に認知限界の中にいる
 - 一人称的認知限界は不変
 - 三人称的社会把握がより困難になる(複雑性の増大)
- 社会は複雑になろうという傾向があるが、技術力が制限になる。 技術力が上がると制限は下がり、社会はより複雑になる。
- (情報を含む)技術が複雑性を縮減できる程度にしか社会を複雑にできない。 ホップズ問題があるから
- 個人情報を提供すればするほど、社会は複雑になる余地ができる。

1 - 1 . 非人格的Big Itが効果的である場合の提示

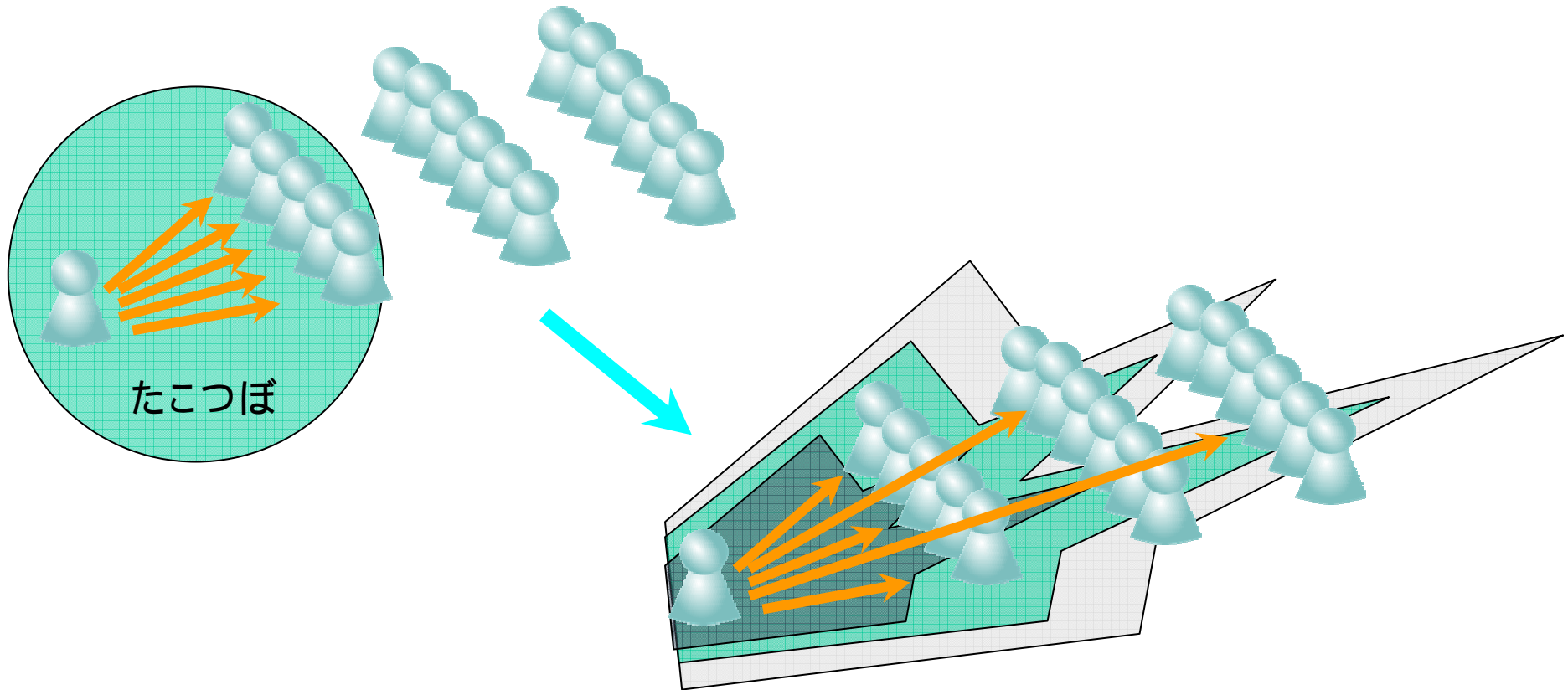
- 辻さんのメインテーゼは「非人格的Big Itに対して存在の匿名性をあけわたすべきではない」
 - 「あるひとつ(あるいは2つ)の例をだして、それがうまくいかない」という議論によって全体を否定している。「あるひとつのうまくいく例を出せばいい」
 - **例1**: 飲酒すれば事故を必ず起こすわけではないが、事故の理由の上位に飲酒運転がある場合。
 - 飲酒運転で免許停止中の人は車を運転できなくする。
 - **例2**: 副流煙を吸えば必ず肺がんになるわけではないが、副流煙を吸ったほうが肺がんにかかる率が何倍か上がる場合。
 - 非喫煙者の前ではたばこが吸えなくする。
 - (上記はダブル・コンティンジェンシーでない「殺人」の例でもある)
- 正確な予測や確率的予測の不備によって行為を禁止するのではなく、**属性があるかないかの比較倍率によって行為が禁止される**というロジックは正当化されるべきか 現行の行政はそのようにしているはず。

1 - 2 . 「個人情報利用アルゴリズム公開法」の提案

- 国が個人情報を利用して、**法を自動実行**する場合に、その適用の仕方に制限を与えるため
- 現行の個人情報保護法
 - この法律において「個人情報取扱事業者」とは、個人情報データベース等を事業の用に供している者をいう。ただし、次に掲げる者を除く。
 - 一 国の機関
 - 二 地方公共団体
 - 三 独立行政法人等
 - 個人情報取扱事業者は、通知義務、目的特定義務、本人への開示義務、訂正・削除義務などがある。
- 法律が公開されているのが法治国家の前提であるならば、アルゴリズム(あるいはソースコード)が公開されているのが機治国家(Bit It)の前提であるべき。
- ただし、民間による**契約の自動実行**のほうが先行するだろう。

2 - 1.なめらかなプライバシー

- 内 = 外によるプライバシーではない、なめらかなプライバシーは可能か。

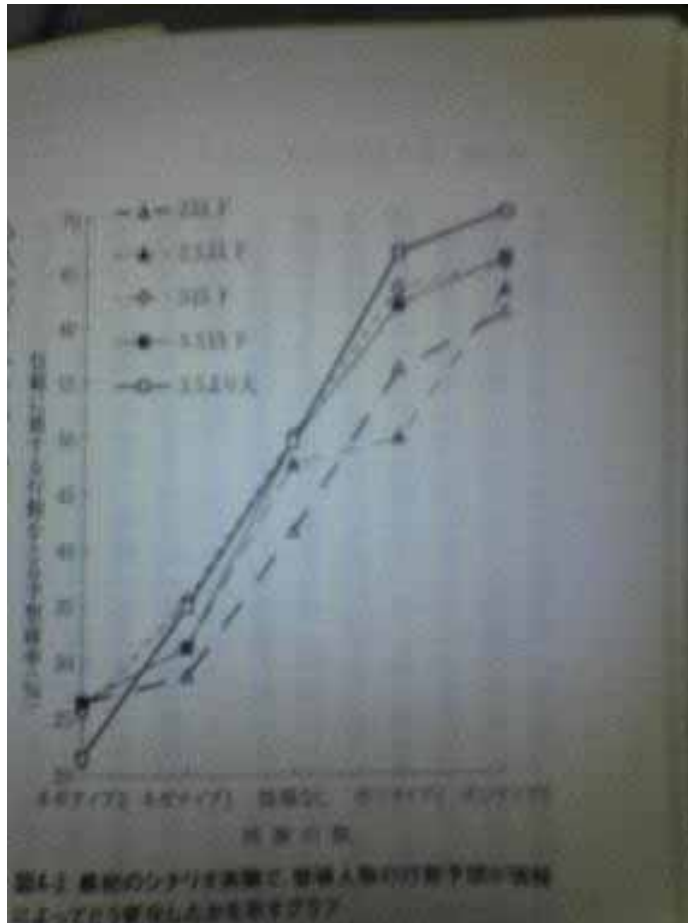


2 - 2 . 4つのWebと場所

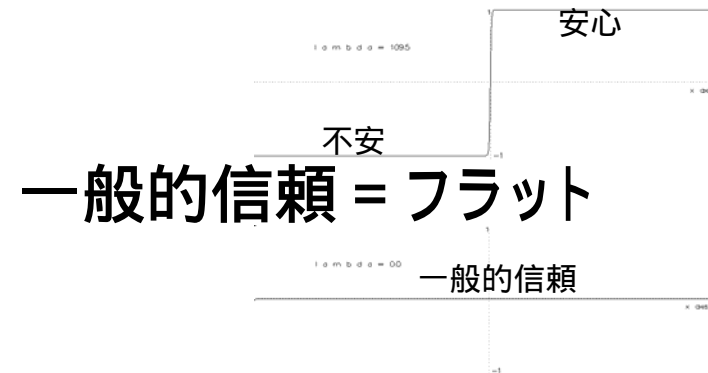
	ブレイク	時代	データの場所
Web1.0	1995	個人ホームページの時代	データは 分散 化しているが、連携ができない。
Web1.5	2000	Webアプリの時代	データは大小様々なサイトに分散しているが、絶対量としてのデータ量は大きなサイトに 集中 している。
Web2.0	2005	機械が処理できるWebの時代	ブログの登場により絶対量としてデータは再度 分散 化していくが、機械が処理できるので、相互に弱い連携をする little brothers(Its)の結合
Web3.0	2010	ASP SPの時代	データのさらに密連携するために、サービスの開発・実行環境が同時に提供されるサイトが生まれる。データは 集中 化する。 The little brother(It)
Web4.0	2015	遍在するXMLの時代	同じスキーマのデータが個人ブログごとにネット上に 分散 し、相互に強い連携をする。BlogのLifelog化と共に個人情報保護産業が形成される。

Web4.0において、内 = 外をデジタルでなくアナログにすることは可能か。世界に新たな「距離」を作りだすことによって、実質的に私的領域の干渉問題を回避できないか。

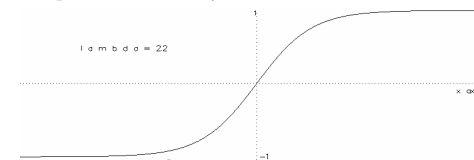
3 - 1 . 信頼と安心の違い



- 『一般的信頼と用心深さ(「この社会では、気をつけていないと誰かに利用されてしまう」などは別の因子を構成する』辻氏パワポより
- 信頼の解き放ち理論: 社会的知性の(情報処理)能力が高い人ほど、デフォルトの信頼は高いが、与えられた情報量に敏感に反応する
- 「デフォルトの信頼」+「情報に基づく判断」
安心 = ステップ



PICSY = なめらか



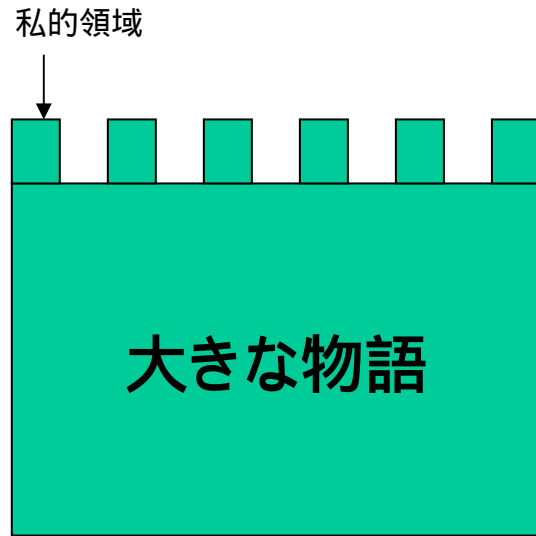
山岸俊男「安心社会から信頼社会へ」1999年

P118の図4-2

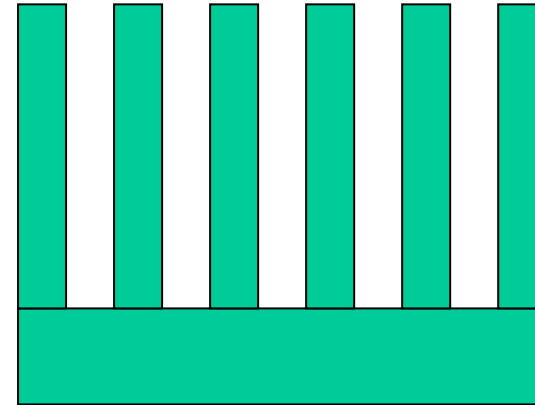
3 - 2 . PICSYと信頼

- 「デフォルトの信頼」の底上げ
 - PICSYは(投資 = 被投資)運命共同体にさせることによって一般的信頼を底上げしている。
- 情報による判断
 - ほどほどの「存在の顕名性」によって、社会的知性を働かせ、だまされることを防げる
 - PICSYにおいて、どの情報をどこまで出すかはかなり制御できるので、どのバランスがいいか検討が必要。
 - 取引自体のマッチングに関しては、PICSY外部の与信システムも必要。 現在研究中。1月？

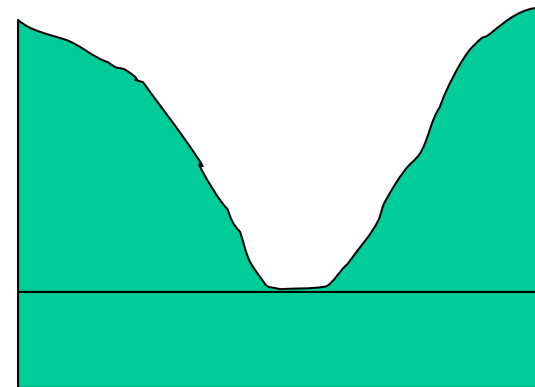
ステップ、フラット、なめらかか



モダン



東さんのポストモダン



私のネクストモダン

当然ですが、あくまで
理念型です